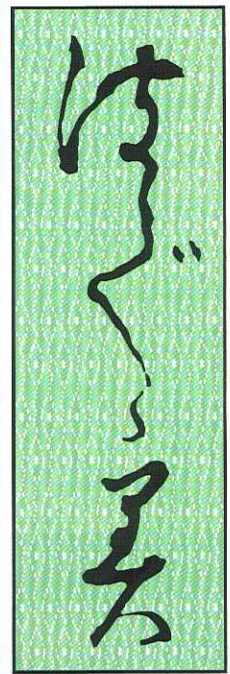


大分県PTA



発行所 大分市下郡字長谷496の38 大分県教育会館2F 大分県PTA連合会 (097)556-9055 http://www.oita-pta.com/ 責任者 富永大輔 印刷所 大分市高江1丁目4323番25 いづみ印刷株式会社

第6回 全単位PTA会長研修会

伝えよう絆子どもたちへ

9月8日(土)、第6回全単位PTA会長研修会が、大分県教育会館にて開催された。県内PTAより287名が出席。テーマは「単P会長として見えてきた子どもの教育について子どもたちに伝えたい：PTAの絆」。全体研修会、分散研修会を通じ単P会長の思いが伝わる会となった。

つながりあう PTA活動を目標して



あいさつする 富永県PTA連会長

のために何が出来るのか、再確認を行い、会員同士の絆や子どもたちに伝えたいことは何かを考える糸口を見つける機会とするものである。

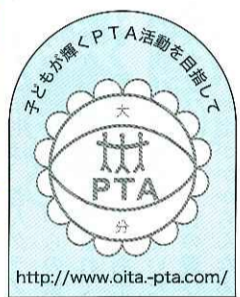


真剣に聞き入る参加者

県下単位PTA会長が一堂に会し、生涯学習の視点に立った研修活動の推進を目的に毎年一度開催される。互いの意見を交わし交流を深め、PTA活動の質と向上を図ることが趣旨。地域の要であるPTAが、家庭・学校・地域の人間像を見せたい。意見交換を通じて、多くの考えを参考に、地域や単Pでの話し合いなどに活用できるように、何か一つでも良かったと言えぬものを持ち帰り今後の活動に役立てて欲しい」とあいさつ。



県P役員紹介の様子



http://www.oita-pta.com/

全体研修会では「こは命の星」推進事業としての実践発表が、別府市立大平山小学校PTA、杵築市立向野小学校PTAによって行われた(活動の詳細は3面に記載)。

続いて、富永大輔県PTA会長より、今年4月に東日本大震災の被災地を撮影したスライドの視聴を行った。この記録は、九P協での被災地視察で、実際に現状を目のあたりにした会長が補足説明。「実際に被災地と想像できなかったことが違う。想像できなかった世界があった。今だに自分の学校に戻れない子どもや避難を強いられる人たちの姿に胸が痛んだ」と語った。

絆を 生きる希望に つなげて

さらに「津波や震災の恐ろしさを改めて知ることができた。県Pでも被災地の実態を知り、少しでも何か役立つよう努力していきたい」と述べた。次に「震災を生きた子どもたち・ガレキの町の小さな一歩」と題したドキュメンタリー番組の放映が行われた。震災で特に被害が大きかった岩手県大槌町の子どもたち

午後からは、10会場に分かれてグループ討議をする分散会研修が行われた。今年度はグループによって討議がなされた。同規模校での討議は、各々の持っている思いを熱心に話し合うよい機会となった。第1グループは小学校の規模校。地域の連携やあいさつ運動、見守りに力を入れている学校が多く見られた。「地域の方と子どもたちが顔



活発な意見交換

同じ目線で 語り合おう 分散会研修

の表情や生きていく姿が映し出された。参加者からは「子どもたちは、小さな体で、幼い心で厳しい現実と向き合っている」「希望と絆を持って前に進もうとする姿にいろいろと考えさせられた」などの声がかかれた。



討議を盛り上げる司会者

見知りになり、全体で見守る意識を持った」など活動への思いを真剣に語った。第7グループは中学校の規模校。「保護者同士の親睦や地域との連携を深める工夫についてどのように考えているか」「PTA会長通信」の発行で活動内容の周知を図っているなどの意見も出された。第8グループは小中学校の小規模校。役員選出や学校行事、統廃合についてなど小規模校ならではの悩みを討議。「中学進学などで、大人数に子どもがとけ込めるか」など活発な意見交換が行われた。

討議で生まれた 思いを 共通の課題に

分散会研修の後、再度会場を移し、分散会報告会が行われた。各グループの代表者に

より、それぞれ出された意見内容を発表。どのグループも熱心な討議を行った息づかいを感じる報告会となった。内容は以下の通り(抜粋) ▼地域のふれあい子どもを育てていく。学校に関心を

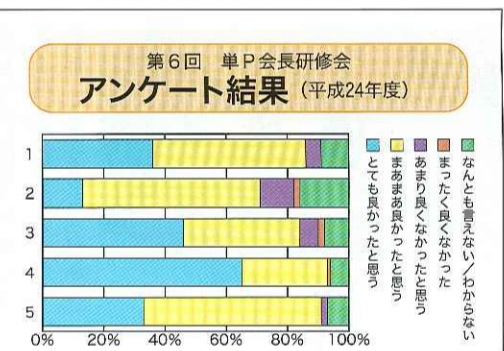


Table with 5 rows and 6 columns: 番号, 質問, and 5 categories of responses (e.g., 参加した感想, 全体研修会...). Includes a note: (回収率41%)

・他校の状況などを直に聞くことができ、今後の活動の参考になった。 ・同じ会長との話ができてよかった。 ・分散会では、同規模校でグループをつくらせてもらっていたので、他校の活動を聞いて参考になるところがあった。 ・テーマをしばって話した方がよかった。 ・PTA会長としては、ほぼ半年がすぎた状況なので、もう少し早い時期(夏休み前)に開催してほしい。

▼PTAに参加することで、初めて地域との関わりについて知った。 ▼先日の大雨で、防災についても一度考え直したい。 ▼親同士が仲良くなれる。 ▼統廃合や閉校が決まった学校もあるが、小規模校の良い所をもっと見て欲しい。 これからも、PTAに対する多くの課題は残されているが、家庭・学校・地域の絆を深めていきたいという共通の思いが持てた会となった。

▼PTAへの参加を促すためには、まず自分たちが楽しむ姿を見せる。 ▼問題が起きる前に行動を起こす。問題点に向かって、家庭・学校・地域が絆を育む。 ▼いかに早く役員を受けてもらえるかが難しい。子どものために、保護者の心がひとつになるものにPTAというものがあるのではないか。 ▼「PTA活動」＝「絆」である。

▼PTAに参加することで、初めて地域との関わりについて知った。 ▼先日の大雨で、防災についても一度考え直したい。 ▼親同士が仲良くなれる。 ▼統廃合や閉校が決まった学校もあるが、小規模校の良い所をもっと見て欲しい。 これからも、PTAに対する多くの課題は残されているが、家庭・学校・地域の絆を深めていきたいという共通の思いが持てた会となった。

研心北 ▼吉田沙保里選手が国民栄誉賞で8月のロンドンオリンピックで、パラリンピックの感動が蘇った。我が国史上最多の38個と7個のメダル獲得で終了した。が私はこのメダル獲得が今後演出するドラマに注目している ▼ところで今大会で「あなたのおし選手一人を」と問われたら誰? 私は、村田諷太選手 ▼「僕に才能があつて金メダルが取れたと思うし、周りにも支えられた。神様も味方してくれた。金メダルは狙っていた。夢じゃなく、目標だった。ただこれが僕の価値じゃない。これからの人生が僕の価値になるので、恥ずかしくないように生きていく」。ボクシング男子ミドル級で村田(東洋大職員)が、日本勢としては48年振りとなる金メダルを手中にした時の言葉である。才能、神、目標、メダルの価値、以後の人生、恥。短い言葉の中にメダルの価値、メダルの持つ力全てを言い尽している ▼「努力したから報われるわけではない。でも努力しないと報われない」恩師武元先生の言葉である。どんなに教訓でもそれを体現できなければ空念仏である。「自分にとってのゴールと決めて臨んだ」決勝戦は努力で培った自慢のスタミナと前へ前への突貫精神で尊敬し憧れて止まない天国の恩師へ輝く「金」の贈物となった。と同時に、私達日本人、いや世界の達人への限りない教訓を届けてくれた ▼表彰式ではガッツや雄叫びも涙もなくはかんだような笑顔を浮かべて「僕の憧れは武元先生。武元先生こそが称えられるべきだ」死後も金メダリストに慕われる武元先生が羨ましい。村田のメダルは心も金色に染めた。

平成23・24年度 大分県PTA連合会指定研究発表会

地域とともに 広がる連携

平成23・24年度の2年間にわたり県PTA指定研究に取り組んできた3校の研究発表が行われた。

家庭・学校・地域が連携する重要性を再確認し、それぞれ特色を生かした活動の発表となった。

(日程の都合により由布市立湯布院中学校の発表は次号(2月)に掲載します)

日田市立朝日小学校校育友会 11月17日

広がる笑顔いつぱいの絆

日田市立朝日小学校校育友会(児童数122名、会員数96名)は絆で育てる朝日っ子!と広げよう親の輪育てようみんなの笑顔を研究主題に、公開発表を行った。

地域に根ざしたユニークな活動

1年生は家族の一員として、自分一人で行けること・家の人と一緒にしてみたいこと・いっしょに楽しみたいことの課題からそれぞれ考えたお手伝いをしてみた感想を発表した。自分一人で行けることとして、「ご飯つき」や「寝る所に掃除機をかける」などに家族をニコニコにしようとして取り組んだ。児童は「お母さんに、がんばって来てあげよう」と、と

2年生の「お芋パーティー」を開こう、5年生の「収穫祭」親子でもちつきをしよう、では、それぞれ地域の方の指導を受け、自分たちで育てた作物を使い、感謝の会を開いた。



おいしくできたかな

午前中は、学年を4つに分けての公開授業。1・2年生は、老人クラブの方々と一緒に昔ながらの伝統的な遊びの中から生まれてくる「和」を楽しんだ。羽子板で男子児童と対戦していた老人クラブの方は「昔の遊びのほうがお金がかからな



おうちいっばい

4年生は、地域の歴史に詳しい方から吉野に多い、お大師様についての話を聞いた。授業だけでは得られない話に、自分たちのふるさとへの理解が一段深まった。地域の輪を広げながら、自分たちのふるさとを広げよう、よい

話を聞いてあげられるような人を助ける仕事をしたと思っただけで、子どもたちは「真剣にゲストティーチャーの話を聴く姿に心を打たれる感じが純粋なのだろうな」と感じた。アトラクションでは、6年



伝統の棒術

午後からの研究発表では、今回の取り組みの実践活動報告が詳細に行われた。「笑顔と笑顔で」をモットーに活動を積み重ねてきた結果、家庭・学校・地域の連携強化に意識が高まり、それぞれが役割をPTAは持っている。森田俊郎県教育庁社会教育課社会教育主事は「戦略・活動・連携が非常に良かった。今回できた大きな「わ」を維持して、土台はできたのでそれをますます活用していつか「わ」と指導講評した。

子どもの元気が活動の源

大分市立吉野小学校PTA 11月25日

4年生は、「モーモースクール」と題して、搾乳・哺乳体験を行った。地域の酪農家の協力で乳牛1頭と仔牛2頭が来校。児童はこれまで、酪農・畜産の学習を重ね、命の尊さや地域の産業への理解を

午後からの研究発表ではアトラクションに続き、研究主題の説明が行われた。育友会は学校・地域とも良く連携しており、子どもは地



「朝日の宝」大合唱

5・6年生は、地域の方々によるゲストティーチャーから話を聞いて、いろいろな仕事について学んだ。介護の話聞いた女子児童は「施設に120人いればみんなやりたいことはバラバラ。自分も機会となった。

生が棒術を披露。地域の方に見守られ、学校が子どもと地域を結び心をつないで、大事に受け継がれてきた吉野小の伝統ある棒術からも、大きな輪が見られた。

PTA活動の「わ」

見えてきた

PTA指定研究発表は、昭和24年県教委が始めたのをきっかけに昭和31年から県PTAと共催で引き継がれており、他県にはない大分県PTA連の特色ある事業である。現在は県南・県北の各都市より2単位PTAを指定、2年間の研究の成果を公開発表し、今後のPTA活動の振興を図り、大きな成果をあげている。

「朝日の宝」として見守られている。また役員の約4割を父親が占めているのも大きな特徴と各々が成果を発表した。多田千栄県教育庁社会教育課主任社会教育主事は「多数の父親の参加があり、うらやましい。役員が町内から選ばれているという珍しい形。笑顔で子育てしているという思いが、この研究発表でさらに強くなったのではと感じている」と講評した。

「先生、素晴らしいよ」等のアドバイス。就労に向けて悩んでいる保護者の方に、ジョブコーチや相談機関の情報を伝えてくれる方がいる。また、職場での様子や思いを伝えてくれる本人さん。こうした様子もまな立場の方の思いを聞くことは教育に携わる私達にとっても、とても有意義な時間。決して楽しいばかりではないけれども、それを言える会があることが大事だと思ふ。私も、「明日は...」と、楽しみにしているひと

九重町立南山田小学校 教諭 恒任 珠美

楽しい「明日」へ



# まじは命の星 推進事業 活動報告⑧ いのちを感じる活動を

## 命のある風景を

別府市立大平山小学校PTA  
加来 暢彦P会長 児童数 425名

平成20年度は、大平山小において30周年の節目の年を迎えていた。そこで当時の役員で話し合い、まず子どものために何が出来るかを考えた。また、一年で終わることではなく、この先大平山小に入学してくる子どもたちも継続できる何かを残したいと考えた。今では、インターネット等で様々な情報を入手できるが、実際に体を使うと、ネットでは得られない体験・情報

### 子どもたちが自ら動く活動を

テーマに「緑がいっぱい大平山」を掲げ、なるべく大人は手を出さないことをコンセプトとした。



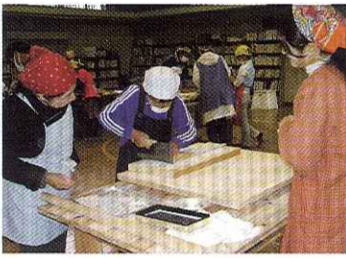
緑のカーテン

まず校舎の周りに花壇を作ることから始めた。地をならしレンガを並べ土と肥料を入れ種をまいた。また教室の前には竹を組んで緑のカーテンを作った。その後も植物の育て方を観察し、育てたゴーヤは調理して食べた。加来暢彦P会長は「この取り組みを通じて、子どもたちは環境・物を育てる大切さを学んだ。今でも緑のカーテンは続いている」と語った。

## 手作りから受け取る食育

杵築市立向野小学校PTA  
川野 正太P会長 児童数 12名

向野小は平成16年度から食育を中心とした活動を続けてきた。平成17年度の市P連の指導者研修会では、各家庭からのレシピを「我が家の一品料理」としてまとめ配布した。



包丁気をつけてね

また平成20年度の指導者研修会では、親子で野菜を育て調理するという取り組みを発表した。こうした活動の中で、手作り料理の大切さを再確認し、更に食育活動を推進していくこと、「こは命の星」推進事業に申し込んだ。

### 親子でふれあう取り組み

生きる上で基本となる食についての意識を高め、手作りの楽しさを実感してもらおうと「親子でそば打ち体験」をテーマとした。平成21年11月21日、全校児童・保護者・教職員合わせて41名で、中津市

本那馬溪町の「やかた田舎の学校」へ向かった。旧屋形小学校の校舎や体育館を利用した施設で、日本の食文化としての「そば」について学び、親子でふれあひながらそば打ちを行った。そば粉の手触りや香りに、改めて手作りの楽しさを見出すことができた。川野正太P会長は「家庭・学校と連携して地道に活動してきたが、これからは食を中心に暮らしのあり方も見直したい」と語った。

## 第60回日本PTA全国研究大会 京都大会

宇佐市PTA連合会  
副会長 松永 建比古

第60回日本PTA全国研究大会が「いのち・こころ・ゆめ」をスローガンとして8月24日・25日残暑厳しい京都の地において全国から熱い気持ちを持った約八千人の会員が集い、華々しく開催されました。

京都は、学制が発表される

前の明治2年に全国で初めて公立小学校が誕生した(まち)という大会を大会実行委員長よりお聞きしました。明治維新後の危機的な状況下において、保護者や地域の人たちが知恵を出し合いながら学校を支えていったそうです。まさにPTA活動の原点だろうと思えますし、第60回を飾るの

にとてもふさわしい地であろうと思えました。分科会・全体会を通して全国各地の会員が語り合い、単位PTAや都道府県政令市PTA協議会の枠を越えて交流の輪・話を広げることが出来たことを京都府PTA協議会の皆様に感謝申し上げます。報告とさせていただきます。



参加者全員で

11月1日、佐伯文化会館で行われた「平成24年度『おおいた教育の日』推進大会」に於いて、仙台市P協議会会長の内田幸雄氏による講演が行われた。「防災教育がなくなると学校の絆」がテーマ。震災から一年半経った今、当時を振り返り、また、今だから見えてきたことなどを語った。

### 学校と地域の連携 強化を日常的に

東日本大震災は、未曾有の災害であり教育現場も混乱した。避難所になった学校では、3日程度で先生方を家に帰すことができた学校と、一週間経っても家に帰せない学校とに分かれた。前者は地域とのつながりが強い学校。地域が自主的に動き、自然と役割分担ができていった。反対に後者はそれが弱い学校。そうすると先生方が走り回らねばならなかった。常日頃から積極的に地域と関わり、地域に向けて開かれていくことは重要なことであろう。



講演する内田幸雄氏

### 震災に心が育つ 子どもたち

電気が止まることもそうだが、水道が止まっていたことが一番不便だった。水を汲んで運ぶ作業には、なりふり構わずどの子どもも一生懸命働く姿が印象的だった。役割があることが子どもたちを成長させたのだと感じる。子どもの発達段階で、必要な時期に必要な経験というものがあるのだということも知った。また、今笑っていたり環境に順応しているか見える子どもたちも、心に傷を負っている。今後の長いケアも必要だ。

### 心の傷を 皆で受けとめよう

皆さんに伝えたい。避難訓練をして。日頃から意識を持つことが重要だ。また被災地の者にとって、忘れられることは辛い。どうぞ忘れられないでほしい。

## 講演要旨 「東日本大震災から見た絆の大切さ」

～ 子どもたちの笑顔のための学校・家庭・地域の連携 ～  
講師 内田 幸雄 氏

### ライフラインへの 関心を普段から

震災直後から、電気・ガス・水道は止まり復旧までには時間がかかった。電気がないというところはケータイも使えなくなるというので、我々は日頃電気に頼りすぎているこ



実は体育が大嫌い。そのせいか小中学校の頃は図書室に入り浸っていた。心に残っている本は、あかね書房「科学のアルバム」(後に進路に影響大)、ポプラ社「少年探偵、江戸川乱歩シリーズ」、そして「三国志演義(立間祥介訳)」。

### 読書と遺伝子

読書の効用は論をまたない。図書室や図書館を見ると、蔵書数、種類、空間、これら読書環境のどれをとっても今の子どもの方が

豊後大野市PTA連合会  
会長 馬場 尚登

**内田幸雄氏 プロフィール**

1963年(昭和38年)1月、東京生まれ  
仙台市PTA協議会会長  
内田幸雄社会福祉士事務所代表  
宮城学院女子大学・東北学院大学・東北化学園大学非常勤講師  
震災直後から、避難所となった学校での子どもたちの生活支援や全国からの支援物資等の受入と提供を行ってきた。

# ありがとうございました 九州北部豪雨災害募金

大分県PTA連合会

11月19日、今年7月におきた九州北部豪雨災害で被災した3市のPTA連合会・連合育友会に対し、義援金引渡し式が行われた。

式では中津市・竹田市各PTA連合会、日田市連合育友会の各代表者に、富永県PTA連合会が義援金を手渡した。

県PTA連では災害後、各郡市P連を通し募金を呼びかけた。県P会員だけでなく、小・中学校の児童会・生徒会を中心に募金活動も行われ、短期間で多くの義援金が集まった。

また、賛同した一般企業からの募金もあり、多くの方の善意が寄せられた。

10月末現在で215万円もの義援金が県P連に寄せられた。この義援金は、被災した3市のPTA連合会・連合育



富永県P連会長と各代表者

友会を通し、子どもたちのために使われる。

目録を受け取った代表者は「多くの方から気持ちのこもった義援金をいただき、とても感謝している。現在も通学路の復旧には困難が続いており、しばらく時間がかりかかろうな状態。児童・生徒の学校生活が有意義なものになるよう使わせていただく」と述べた。

**県P情報**

第21回大分県PTA研究大会  
大分地区大会津久見大会  
▼研究主題  
地域をまきこんだPTA活動を考えよう！

▼大会スローガン  
みかんの花香る津久見から  
育もう！希望溢れる  
子どもたちを  
地域と共に子どもたちの健全育成を目指して！

平成25年1月26日(土)  
会場 津久見市民会館  
戸高育英会館

◆おこわり  
「二村一報」は紙面の都合上、お休みします。



講演する草場一壽氏

「語りあい 認めあい 育てあい 愛ことばは『子育ていちばん！』く未来を創る子どもたちへ 今 私たちができること」を大会スローガンに、第57回九州ブロックPTA研究大会佐賀大会が10月27・28日に開催された。

九州各県より約8000名(大分県からは480名)が参加した。1日目は10の会場

## 第57回九州ブロックPTA研究大会 佐賀大会

「語りあい 認めあい 育てあい 愛ことばは『子育ていちばん！』く未来を創る子どもたちへ 今 私たちができること」を大会スローガンに、第57回九州ブロックPTA研究大会佐賀大会が10月27・28日に開催された。

九州各県より約8000名(大分県からは480名)が参加した。1日目は10の会場

「語りあい 認めあい 育てあい 愛ことばは『子育ていちばん！』く未来を創る子どもたちへ 今 私たちができること」を大会スローガンに、第57回九州ブロックPTA研究大会佐賀大会が10月27・28日に開催された。

「語りあい 認めあい 育てあい 愛ことばは『子育ていちばん！』く未来を創る子どもたちへ 今 私たちができること」を大会スローガンに、第57回九州ブロックPTA研究大会佐賀大会が10月27・28日に開催された。



自校の活動を真剣に発表



和やかに進む討議

「語りあい 認めあい 育てあい 愛ことばは『子育ていちばん！』く未来を創る子どもたちへ 今 私たちができること」を大会スローガンに、第57回九州ブロックPTA研究大会佐賀大会が10月27・28日に開催された。

「語りあい 認めあい 育てあい 愛ことばは『子育ていちばん！』く未来を創る子どもたちへ 今 私たちができること」を大会スローガンに、第57回九州ブロックPTA研究大会佐賀大会が10月27・28日に開催された。

**おめでとうございます**  
平成24年度 優良PTA功労者表彰

**文部科学大臣表彰** (以下敬称略)

〈団体〉 杵築小学校PTA (杵築市)

**日本PTA会長表彰**

〈団体〉 東陽中学校PTA (大分市)  
上北小学校PTA (臼杵市)  
〈個人〉 豊田有里 (豊後高田市)  
〈広報紙コンクール・レイアウト賞〉  
佐伯城南中学校PTA (佐伯市)

**九州ブロックPTA会長表彰**

〈団体〉 西小学校PTA (別府市)  
朝日中学校PTA (別府市)  
〈個人〉 後藤 智 (別府市)  
加来桂一 (中津市)  
豊田有里 (豊後高田市)  
〈感謝状〉 後藤 智 (前九P代議員)  
豊田有里 (前九P代議員)

**はぐく美保険サービス株式会社 設立報告会**

10月5日(金)、ホテルザグズにおいて、はぐく美保険サービス株式会社設立報告会が開催された。来賓に三井住友海上火災保険株式会社大分支店・古賀健大分西支社長、藤山武大分西支社長を招き、県PTA連役員ら45名が出席した。

PTA会員にとってよりよい補償を、と考へ、県PTA連では新たに保険代理店(はぐく美保険サービス株式会社)を

10月5日(金)、ホテルザグズにおいて、はぐく美保険サービス株式会社設立報告会が開催された。来賓に三井住友海上火災保険株式会社大分支店・古賀健大分西支社長、藤山武大分西支社長を招き、県PTA連役員ら45名が出席した。

PTA会員にとってよりよい補償を、と考へ、県PTA連では新たに保険代理店(はぐく美保険サービス株式会社)を

**反抗期 どう接したらいいの? 26**

**みんながながえる コーナー**

**今が、出発点!**

わが家の孫娘、中学2年生。「朝、ご飯を食べて登校。適当に勉強し、帰宅後、夕飯。寝る直前に宿題。このくり返しの毎日。『自分って、いつたいた何なんだ。』時間に流されていく。自分は何も変わっていない。その日のそれらしい目的はあるが...」

最近、友だちと、こんな会話が弾んでいるらしい。

小さな背中に背負ったランドセルの中に、あれやこれやの大きな楽しみを詰め込んで過してきた日々。

今、ちよつと大きくなった背中に乗った、リュックがしぼみ気味に揺れ動いている。「目の前のことをこなして

いけば、何とかなるだろう」と、二人で確かめあって、話しは終わってしまったようだ。

包みこまれ、沈んでいた「自分自身」が大海原に出ようとしているようだ。荒れた海は行く手を阻む海。そんな海には音を上げないしなやかな自分しか役立たないだろう。

孫娘よ。そのためには、一日一日をいねいに心を込めて生きることを。そして、少しばかりのいたわりの心と愛情を。

今が、出発点! 自分に問いかけながら。

すべての子どもたちに! みんなで考えるコーナー室長

岩尾 淳一

立ちどまらない保険。MS&AD 三井住友海上

**三井住友海上の安心**

**GK**

〒104-8252 東京都中央区新川2-27-2  
www.ms-ins.com

**編集後記**

▼改めて見直される人と人との心の絆。人と心の絆が大切な宝物となるように願う。

▼流行の「育爺」が身近にいる。親の他に頼れる場所がある。子どもにとって心強い。

▼子どもたちの爛漫な笑顔。ずっとこのままで、と願うほど、親らしさとは? と考える。

▼言葉ひとつで気持ちを温かくも傷つけもする。相手を思い寄せにする言葉を選べたら。